

現代世界演劇 4 (全17巻別巻1)
宗教的演劇

定価 二二〇〇円

一九七一年八月二〇日印刷
一九七一年八月二〇日発行

訳者 ©

津川 良太
芦津 丈
渡辺 守
岩瀬 孝
田倉 稔
之の 倉

発行者 寺村 昭一

印刷者 田中 昭三

発行所 株式会社 白水社

東京都千代田区神田小川町三の二四
電話東京(四)七八一一(代)
振替東京三三二二八
郵便番号一〇一

理想社印刷・加瀬製本

(分) 0397 (製) 51540 (出) 6911

現代世界演劇

4

宗教的演劇

小社

・Hugo von Hofmannsthal.....JEDERMAN
・ホーフマンスタール・イエーターマン 津川良太

・Ernst Barlach.....DIE SUNDELL
・エルラッハ・ノアの洪水 西澤文夫

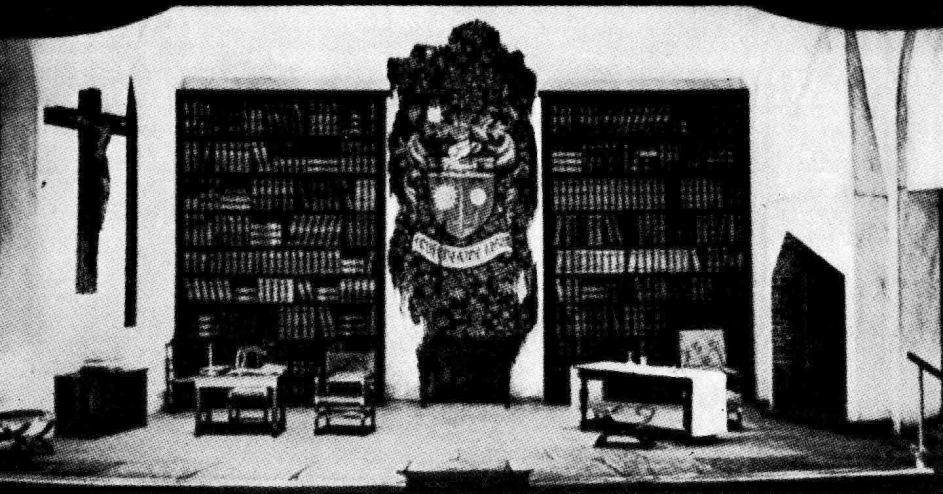
・Paul Claudel.....L'OTAG
・ローデル・人質 渡辺守章

・Georges Bernanos.....DIALOGUES DES CARMELITES
・G.ベルナノズ・カルメル会修道女の対話 岩瀬 孝

・Diego Fabbri.....PROCESSO A GESU
・D.ファブリー・イエス裁判 田中倉裕

解説 岩瀬 孝



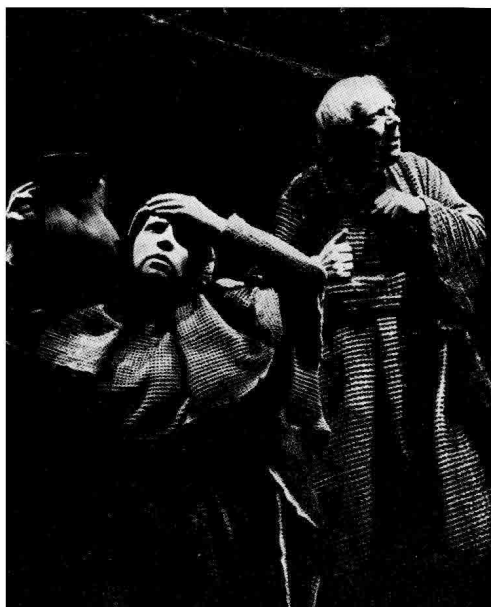


クローデル「人質」





ホーフマンスタール「イエーダーマン」



パールラッハ「ノアの洪水」

目次

H・v・ホーフマンスタイル作 イエーダーマン	7
E・パールラッハ作 芦津丈夫訳 ノアの洪水	57
P・クローデル作 渡辺守章訳 人質	129
G・ベルナノス作 岩瀬 孝訳 カルメル会修道女の対話	223
D・ファップリ作 田之倉稔訳 イエス裁判	315
解題	405
解説 岩瀬 孝	413

装幀
朝倉
攝

フリーゴ・フォン・ホーフマンスタール作 津川良太訳

イエーダーマン

金持ちの死のお芝居（改作）

Hugo von Hofmannsthal
JEDERMANN
1911

登場人物

主なる神

大天使ミヒアエル

死神

悪魔

イエーダーマン

イエーダーマンの母

イエーダーマンの親友

執事

料理人

貧しい隣人

負債が返済できずに捕われた男

その妻

恋人

太った従弟

痩せた従弟

若い娘たち

イエーダーマンの宴会の客たち

刑吏

下僕たち

楽隊

童児たち

富

善行

信仰

僧侶

天使

口上役（進み出て、芝居の口上を述べる）

東西、東西、さても皆々さま、本日、ただいまより、演じ、ご覧に入れますのは、宗教劇と申すものにして、またの名を、イエーダーマンの審問と申します。この劇では、この世の日々、生業のいかに移ろいやすくはかないものかを、とくとご覧に入れることになりましょう。筋立てはまことにみごとでわかりやすく、素材もけっこうなものですが、その後ろには、さらに多くの意味が隠されているのでございます。どうか皆々さまには、それをしみじみと心に感じとられ、この内容から教訓をおくみとりくだされますよう。

主なる神（玉座に坐して姿を現わし、語る）

なんとしても、もはやこれ以上、がまんができぬ。人間どもはだれもかれもけしからぬことに創造主のわしを忘れ、わしを少しも恐れず、獣にも劣る卑しい生活を平気で送っておる。彼らは信仰の目を失い、罪に溺れておる。これが人間どものいまの姿だ。わしが自分たちの神であることを認めず、ひたすら地上の財宝を追い求め、それ以上のものを嘲笑う始末だ。いま、こうしてわしの

見るところでは、彼らは、わしが十字架の上で血を流したとき、彼らと結んでやった神の契約をすっかり忘れて去ってしまったおる。わしが十字架にかけられたのは、彼らに真の生命を得させんがためであった。彼らの足から茨を取り除いてやり、それをわしが冠として頭にいただいたのだ。わしはできるかぎりの契約は果たした。だがいまや、わしに心をとめる者としておらぬ。それゆえ、わしはこれよりさっそく、人間どもの審判を行ない、イエーダーマンに対し、それ相應の判決をくだすことにしようと思う。これ死神、わしの力強き使者よ、どこにおるか？ わしの前にいでよ。

死神 全能なる神さま、御前にござりまする。ご命令のままだに、いずこへなりとお使いいたすでございましょう。

神 イエーダーマンのところに行け、そして、わしの名において彼に告げよ。この日、この時をもって即刻旅立たねばならぬ、けつして免れることのできぬ死出の旅にだとな。そして、自分の決算書を持参するように、また、引き延ばしたり、ぐずぐずいたしてはならぬと申し渡せ。

死神 主よ、このわたくしめ、全世界を駆けめぐりまして、神の掟をないがしろにし、獣の仲間に着ちこんでい

る者がおりますれば、貴賤きけんを問わず、必ずや苦しみを
見舞い申してやりましょう。地上の財宝に血道をあげて
きた者には、一撃を加え、目がつぶれて、天国の門が見
いだせぬよう仕向けてやります。ただし、みずからの
なしたる施しや慈善がその者に味方し、その者を弁護し
てくれる場合は別といたしましょう。

イエーダーマンが家から出てくる。下僕がひとり、
あとに従う。

イエーダーマン 大急ぎで執事を呼んできてくれ。言いつ
けておかねばならんことがあるんだ。

(下僕、なかにはいる)

わが家は見た目もなかなか立派なものだ。こいつはまっ
たく疑いのないところだ。堂々として上品で、豪華な感
じじゃないか。町じゅう搜しても、これに並ぶものはないぞ。家のなかには高価な家具が山ほどあるし、長持
ち、簞笥たんすもごまんとある。それに召使いたちもおおぜい
いるし、金というけっこうな宝物もある。町の外にはた
くさんの田畑があるし、広大な農園も持っていれば、家
畜がたくさんいる牧場も持っている。そこから地代や小
作料をとりたてるので、おれは毎日毎日、おおいに愉快
な日を過ごせるといふわけだ。

執事登場する。

イエーダーマン 執事、金のぎっしりつまった財布を持っ
てきてくれ、腰につけてくるのを忘れたんだ。それか
ら、もうひとつ言っておくことがある。いいか、明日は

朝から宴会だ。最善の用意をしておかねばならんぞ。親類の者やよそのお客さまがたもお見えになる。食事は贅を尽くしたものでなければならん。料理人をよこして、おまえは金を持ってきてくれ。

執事、なかにはいる。すぐに料理人が登場。

イエーダーマン 明日、朝の宴会を開くから、豪華な料理を作るように。

料理人 かしこまりました。それで、どの品も新しくお作りいたすのでございますか？

イエーダーマン なにを寝ぼけたことを言うか、新しくだ！ わが家の食卓に残りものなど出してはならん。

料理人 昨日の残りがまだたくさんございまして、少なくとも冷肉料理二品分はあるようでございますが。

イエーダーマン ばか者、料理人の分際で、そのような生意気なことをぬかすのか、おれに乞食の飯を食えというのか？

料理人、退場。執事、財布を持って出てくる。イエーダーマン、財布を受け取る。

イエーダーマン 女中や下僕の監督はおまえがやるんだ

ぞ、連中のやることなすこと、どうも気に入らん。

貧しい隣人が遠くに姿を現わし、おずおずと近づいてくる。同時に、イエーダーマンの親友が足早に通りをこちらにやってくる。

イエーダーマン（執事に） おまえがいちばん上の地位についているのも、連中の監督をするため——おお、わが親友のご来臨だ。

（執事、家にはいる）

そろそろ来てくれたもいいころだと思っていたんだ。さあ、町を出て、例の土地を見にいこうじゃないか、別荘に向いている土地かどうかをね。

親友 きみはまあ、昔話のフォルトナウスが持ってたような、いくら使っても金が減らない財布を持っているんだから、万事好都合にいくにきまつてるさ。望むところ成らざるはなし、というのはまったくきみみたいなのをいうんだよ。自然ときみはそうなるんだ。だから、きみにはそれがふさわしいんだね。

貧しい隣人 これが金持ちのイエーダーマンの家だ。ああ、旦那さま、どうかお願いでございます。あわれと思し召して、お助けくださいませ、お慈悲をもちまして、貧しい男にお恵みくださいませ。

親友（イエーダーマンに向かって）とにかく、いまも言つたように、急がなければならぬんだ。あまりぐずぐずしているわけにはいかないんだよ。

貧しい隣人（両手を上げて物乞いする） ああ、イエーダ

ーマンの旦那さま、あわれと思ひ召してくださるませ。

親友 きみ、こいつの顔、すぐわかるかい？

イエーダーマン ぼくがか？ いったいだれだろう？

貧しい隣人 イエーダーマンの旦那、お願いでございま

す。わたしも昔はいまよりましな時代がありました。昔

はあなたのお隣に住んでいたんですよ。軒を並べてね。

その後わたしはそこを立ちのかねばならなかったんです

が。

イエーダーマン（帯の間から硬貨を一枚出して、彼に与

える） もういい、わかった！

貧しい隣人（受け取らない） これはまたずいぶんとけち

なお恵みですな。

イエーダーマン そんなこと言うのか？ なんてやつだ！

そんなことなら、これだってやるのが惜しくなるぞ。

貧しい隣人（財布をさして） そちらの袋のほうから隣同

士の誼で、応分のお恵みをお願いします。そうしていた

だければ、わたしもまたじょうぶになり元氣を取り戻せ

ますでしょうから。

イエーダーマン これからだって？

貧しい隣人 それでございます。膝をついてお願いいたし
ます。せめてそのお財布だけでもわたしと山分けにして
ください。

イエーダーマン（笑う） せめてかい？

親友 なにもかもみな狂つてるよ！ そんなことしてたら

千人もの乞食に悩まされることになるぜ。その千人だっ

てすぐに百倍にもふえるよ！

貧しい隣人 あなたは途方もないくらい金持ちでいらっ

しやるんだ。その財布を山分けしたところで、家には長

持ちがたくさん残っているし、小作料や地代がどんな

はいつてくるじゃないですか。

イエーダーマン おい、おれの筆筒や長持ち、小作料や地

代のことを、つべこべぬかせとだれが言った？

親友 こっちのほうが恥ずかしくなるぞ。

イエーダーマン ま、きみは、いいから——なあ、おい、

おまえな、この財布の金をだ、わけもなくおれとおまえ

とで山分けしてもよからうと思つてるんなら、そりやお

まえの思い違いだぞ。この金はもうすぐおれのものじゃ

なくなるんだ。今日じゅうに払わなければならんのさ、

別荘の手付金としてな。おれは売り手にそう約束しち

まったし、売り手のほうもそういつまでも金を待つて

ちゃくれなからな。

貧しい隣人 このお金が別荘のお金だとしても、あなた

は、同じような財布をいくつも持っていらっしやるんだ。ちょっと合図して、別のを持ってこさせればそれですむんです。それを半分、わたしにください。もしキリスト教徒でいらっしやるんなら。

イエーダーマン たとえ別の財布を持ってきたとしてもだ、それだってやはり自由にゃならんよ。おれの金はおれのために働き、おれのために走りまわらなければならん。死神や悪魔を相手にまわして、悪戦苦闘もしなければならん。遠くまで出かけていってはお金を逃がさぬようにしなけりゃならん。おれのものが、ちゃんとおれの手にはいるようにな。それに、家屋敷だってひどく金がかかるんだぜ。やれ馬だ犬だ召使いだ、そのほかにあつちやこれや、どうしても必要なものがあるよ。別荘とか、釣場とか狩獵場とか、こうしたもののは、小さな子供ひとり育てるより手がかかるものなんだ。いつも手を入れてやらねばならん。なにからなにまで金のかかることばかりだ。もつと金がいってきでくれなくては困るくらいだ。気安く《金持ち》などと言うがね、おれたちみたいになるとだれでも、いつもまきあげられてばかりいてさ、ひどい目に会ってるんだぜ、そんなことはおまえにゃ思いもよらないことだろうな！ あつちからもこつちからも、お願いだ、なんとか助けてくれなんて連中が押しかけてくるんだ。おれたちみたいな者になると

な、ここから次の壁まで、物ほしそうな手にでくわさないでは、三步と歩けないくらいなんだよ。礼儀を守り、法を守り、おのおのの分を守ってさえいたら、万事がうまくいくんだ。自分にはなにが分相応かとくと考えなくてはいいかん。その点をおまえはまちがったんだ。おれの全財産を数え上げて、施しを必要としているキリスト教徒にめいめい分配するようなことがあったとしてもだ、きつとおれは、この銀貨以上はおまえにやろうとは思わんだらうよ。だから、ぐずぐずせずにこれを取っておけよ、これがおまえにはちょうど分相応の分けまえだよ。

隣人はその銀貨を受け取り、退場する。

親友 やつにはまさにあれが分相応というもんだよ。いやまったく、金ができれば知恵までまわるってやつだね。イエーダーマン さあ、出かけようじゃないか、もう暗くなりかけてきたぜ。

負債が返せず捕われた男が二人の刑吏に引かれてくる。そのあとから、彼の妻と子供たちがぼろをまとってついてくる。

親友 ああいうのは、生まれはどうなんだろうね。ほら、

あそこに引き立てられてくるやつさ、両腕を十文字に縛り上げられちゃって。ありゃきつと債務拘留所入りだと思ふよ。ちょっと用心しときさえすればよかったんだろうにね。これからパンと水だけの暮らしをしながら、そこんところをじっくり考えざるをえんわけだ、それとも首を吊るされなきゃならんのかな。おい、どうしたい、語呂合わせでもやったらつてわけか、金貨をお借りし、罪過を犯す、いやまったく語呂が合ってるよ。

負債で捕われた男 やつの会計帳簿に用心しなかったやつはおおぜいいるさ、あれにゃ災いの種がうんとことと書きつけてあるんだ。

イエーダーマン そりゃだれのことを言ってるんだね？

負債で捕われた男 いま、尋ねたやつのことを言ってるんだ。

イエーダーマン おれのほうじゃ、そんな覚えはないぞ、おれをだれと思ひ違ひしてるのか知らんが。

負債で捕われた男 あんたのようになったら、おれは恥ずかしいと思うだろうよ。

イエーダーマン おれに向かつて理由もないのにひどい言いがかりだ。おまえがしあわせになれんからといって、おれにどんな責任があるというんだ？

負債で捕われた男 人をひどくぶちのめしときやがって、それに比べりゃこちとらの言うことなんざ穏やかなもんだ。

だ。

イエーダーマン だれがおまえをぶちのめしている？

負債で捕われた男 あんただよ、おかげでひでえところへぶちこまれるんだ。

イエーダーマン おれはおまえを知らんぞ、見たこともない。

負債で捕われた男 だが、おれを踏みつけてるのはあんたの足だ。

イエーダーマン それはおかしいじゃないか、このおれがなにも知らないのに、そんなことをするなんて。

負債で捕われた男 債務証書にゃあんたの名前が書いてある。それのおかげでおれは牢屋にはいるんだよ。

イエーダーマン おい、おい、それがおれにどう関係があるんだ？

負債で捕われた男 だって、あんたはイエーダーマンその人じゃないか。おれはそいつの提訴によって、その名前のもとに告訴されてんだぞ！ おれが牢屋にぶちこまれるのも、ただ、ただ、あんたの委任があつたればこそだ。

イエーダーマン (あとじさりする) おれにはいっさい責任がないぞ、この件にはまったく関知しておらんのだからな。

負債で捕われた男 そりゃ実際に手をくだして、死ぬほどおれを痛めつけるのは、あんたの手下のそのまた手下